

# 韓国製自動巻き上げ機の 効果確認試験



JAきたそらち

池津 行紀



①慣行区全体



②駆動機



③試験区全体



④制御盤

## 試験目的

ハウス側面巻上時の作業省力化

## 試験作物 及び品種

水稻

## 試験資材 及び数量(規格)

WIND UP ハウス2棟分(制御盤1台、駆動機4台)

## 慣行資材

カンキット

## 栽培方法

播種日	移植日
慣行区:4月中旬 試験区:4月中旬	慣行区:5月中旬 試験区:5月中旬

## 資材使用期間

3月下旬～5月中旬

## 試験結果

### (1)作業性について(慣行品との比較)

巻上作業がいらなくなり、かなり楽になった。

最初の設置、設定に手間がかかるが、慣れれば簡単である。

### (2)作物の生育状況または、収穫への影響

慣行区と試験区で生育に少し差が出てしまったため、温度や開度などの設定を工夫する必要がある。

### (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: ハウス側面巻上の作業省力化

急激な温度上昇への対応(苗焼け防止)

【問題点】: 慣れるまでの設置、設定の時間

温度、開度などの設定の工夫

### (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

耐久年数は3年が目安とのことだが、故障などで急に動作しなくなるか不安である。

## モニター感想

制御盤、駆動機などの設置に少し手間がかかったが、設置後は設定した温度に従って自動で動いてくれるため、作業がとても楽になった。気温が高い日には実際に動いているかどうか不安になり、自分の目で確かめに行くことが多くあったが、巻き上げる労力がいらなくなるだけでも取り付けのメリットはあると感じた。閉めるときよりも開くときのほうが負荷が大きいためか、最初に設定した開度から少しずつずれてしまったが簡単に設定しなおすことができた。結果的に

は試験区のほうが苗の成長が若干早まってしまったが、資材の温度感知が悪かったわけではなく、試験区と慣行区のハウス内温度を同じに保つために温度や開度の設定を工夫する必要があると感じた。また、雨で巻上部分に水が溜まった場合に手動で切り替えて水抜きをすると、開度を再設定する必要があるため何か対策があれば教えてほしい。作業省力性を強く感じられたので来年からは台数を増やし、全棟に取り付けることも考えている。

## JA担当者の感想(資材課 田中主査)

園芸ハウスとは違い、水稻育苗ハウスは1か月ほどしか使用しないため導入コストが高く費用対効果が望めないと感じられたが、実際に試験してみると作業省力性を強く実感していただけたということで、水稻育苗ハウスにも電動巻き上げ機を設置するメリットを感じられた。最初の設置・設定に少し手間がかかるが、慣れることで簡単に使用できるため、試験結果をもとに他の水稻生産者へもおすすめしていきたい。

## 今後の使用について

継続して使用したい。